

自己評価表

愛媛県立松山工業高等学校（全日制課程）

学校番号（24）

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を養成する。	重点目標	1 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 探究心の涵養と創造力・実践力の育成 4 資格取得の実践とキャリア教育の充実 5 部活動の充実と個性豊かな人間性確立 6 地域との連携とボランティア活動推進
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	I C Tを活用した授業を、全教員の90%以上が実施できることを目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	96.3%の達成状況で、ほとんど日常使いのツールとして定着したと考えられる。	教室に設置しているプロジェクタの故障が4件あり、一時使用できないことがあった。更新も検討したい。
		「分かる授業」と「考える授業」を展開していくために、生徒用授業アンケートの回答欄「説明が分かりやすい」と「生徒の反応を大切にする」の回答率90%以上を目指す。 A：90%以上 B：75～89% C：60～74% D：50～59% E：49%以下	A	「説明が分かりやすい」は、94.1%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、「生徒の反応を大切にする」は98%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、生徒が意欲的になれる授業が展開されている。	「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせると、どちらも約25%になるので、その生徒たちの満足度を上げていくための取組をすることが、更に良い授業につながると考えられる。
	資格取得の充実	各種資格・検定試験の合格者総数5000人以上を目指す。 A：5000人以上 B：5499～4500人 C：4499～4000人 D：3999～3500人 E：3499人以下	B	2月末での合格者総数が4428人であり、例年とほぼ同等の傾向である。全国的にも高水準であると考えられ、最終的には目標の合格者総数5000人を超える可能性が見込める。	資格取得は、進路選択のための指標にもなるので、目標を持って計画的に考えさせる。 2年生の資格取得状況が、取得総数やジュニアマイスター顕彰取得にも大きく関わってくるため、早い段階での資格取得を奨励する。
生徒指導	基本的生活指導の充実	自ら進んで正しい挨拶のできる生徒を育成していく。それに関する生徒自己評価の質問事項の肯定的な回答率100%を目指す。 A：100% B：90～99% C：80～89% D：70～79% E：69%以下	B	約98%の生徒が挨拶や礼儀、他人を思いやる態度が身に付いていると回答している。登校時に正門で自転車を降り一礼する「校門一礼」も伝統的に定着しており、元気な挨拶をする生徒が多い。	挨拶は、基本的生活習慣や対人コミュニケーションにおいて重要なスキルであることを生徒たちが理解し、自ら進んで挨拶ができるように、学校生活のあらゆる場面で指導していきたい。挨拶の目的、仕方、場所での使い分けなど自分たちの挨拶に自信や誇りをもって、積極的にはきはきとした挨拶ができるようにしたい。
	交通安全指導の充実	登下校指導や交通安全教育の充実により、交通事故発生数0件を目指す。 A：0件 B：1～19件 C：20～39件 D：40～49件 E：50件以上	C	交通事故発生数は、1学期（16件）、2学期（8件）の24件で昨年度（32件）より少なくなっているが、重大事故につながりかねない事故も発生している。また、事故処理をしていないケースも見られた。	朝の登校指導、生活指導、校外自転車指導、ヘルメット着指導、ホームルーム活動、事故後の指導等のあらゆる教育活動において、自転車等のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底を心掛けさせたい。下校時においても校門一礼を定着させたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A：100% B：95～99% C：90～94% D：85～89% E：84%以下	A	求人数は昨年度より13%増加し約2,300人となり、コロナ禍以前よりも好調な傾向が続いている。1次合格率も97.8%と高い合格率を維持しており、継続的に就職率100%を達成できている。	近年、コロナ禍などの影響か欠席が多い生徒が増加しており、売り手市場で全体の合格率は高いが、不採用の要因になっているため、就職後の生活習慣確立のためにも出席率の向上を図る必要がある。
	進学指導の充実	生徒が自主的に学習できる環境を整えることにより、国公立大学合格者15名以上を目指す。 A：15人以上 B：10～14人 C：6～9人 D：1～5人 E：0人	B	進学者数は昨年度より27%増加し。国公立大学希望者も昨年度の10名から13名となり、合格者も6名から11名と進学補習担当教員の献身的な指導もあり大幅に成果が上がった。そのうち愛媛大学は希望者が8名、合格者が6名となっている。	学力が高く進学を希望している生徒に、高度な専門性を有する大学への進学は、自身にとって有意義な進路選択となることを丁寧に説明し、国公立大学への進学を促していく。
特別活動	特別活動の充実	全国大会上位入賞10部門以上を目指す。 A：10部門以上 B：8～9部門 C：6～7部門 D：3～5部門 E：2部門以下	B	文化、生産部ではメカトロ部が全国1位・2位、電気技術部が2位入賞、繊維デザイン部が3位と著しい成果を上げることができた。 残念ながら今年度運動部の上位入賞は見られなかった。	近年、運動部の全国大会での上位入賞が少なくなっている。特に球技種目の個人戦術・競技力のレベルアップに十分対応しきれていないのが現状であるため各部の対策を早急に進めたい。 一方、文化・生産部では全国大会に下学年を帯同させ次年度に向けての準備、経験を維持させる対策が成果に結びついているため継続したい。
工業指導	社会貢献の充実	「松工ものづくり社会貢献プロジェクト」として、ものづくりを通じた社会貢献を各学科一つ以上行う。	A	工業全8学科とも「課題研究」を通して、一つ以上の社会貢献を目指した活動を実施している。昨年度からポスターセッションを実施し、地域の課題について学習したことで、生徒達の社会貢献に対する意識が高まっている。	生徒の主体性を育むために、次年度も継続して取り組み、内容を充実させた研究発表会を実施させ、ホームページ等を活用して情報発信を行う。 また、各学科の特色が生かせられるよう、各学科と地域との連携強化をさらに推進する。
人権・同和教育	人権教育の充実	松工人権宣言の100%の周知を目指す。 A：100% B：90～99% C：70～89% D：50～69% E：49%以下	A	各ホームルーム教室に「松工人意見宣言」を掲示し、人権・同和教育ホームルーム活動やショートホームルームなどを通じて、周知の徹底を図った。12月に実施したアンケートで「知らない」と回答した生徒(2人)には、学習会を開いて周知と理解を図り、目標は達成できている。	来年度も100%の周知を目指していき、生徒が楽しく有意義な学校生活を送れるように、人権・同和教育の充実を図っていきたい。
環境整備	奉仕活動の充実	各クラス・部で、年1回以上の奉仕活動を行う。	A	校内施設不備のある個所については、事務と協力し合っておおむね修繕補修ができた。また、生徒とともに機械科倉庫の屋根の修理も完成させることができた。 学校周辺の奉仕活動も過半数のクラスが実施してくれたので、目標は達成したと思う。	校内の中央通路の排水枥がうまく機能していないみたいである。また、運動場の排水ができない状況である。今後は、事務と相談しつつ業者による修繕を行っていきたいと考えている。
業務改善	職場環境の整備	教職員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教職員の健康障害0名を目指す。	A	定期的に健康相談等の面談を行うとともに、面談を希望される先生方とは、随時面談を行った。先生方の心に寄り添い、メンタルヘルスの維持向上に努めることができ、体調を崩す教職員はいなかった。	定期的な健康相談等の面談、随時面談を行うなどラインケアの強化を図り、先生方のメンタルヘルスの維持向上に努め、すべての職員にとって居心地の良い職場環境を目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。